

2012 年度 決算業績説明会 ネットカンファレンス質疑応答

日時:	2013 年 5 月 10 日 17:00~18:00
説明者:	IR・広報部 IR グループリーダー 吉田 修
説明資料	2012 年度決算及び業績予想の概要

【12 年度 4Q 実績、13 年度業績予想、足下の事業動向について】

◆ 全体

Q1. 海外子会社の決算期変更による影響額について、12 年度実績と 13 年度予想を教えてください。

A1. 12 年度実績;売上高 400 億円、営業利益△10 億円。

基礎化学品の海外子会社 2 社(フェノール、テレフタル酸)の赤字影響が主要因です。

13 年度予想;売上 400 億円、営業利益 30 億円程度見込み。

石化の海外PPコンパウンド会社を主とした増加を見込んでいます。

Q2. 営業利益に為替影響をどの程度織り込んでいるか、影響が大きいセグメントはどこか教えてください。

A2. 為替感応度は、稼動がある程度保たれている前提で、1円の円安で5~6億円のプラス影響です。

影響が大きいのはウレタンと機能樹脂であり、海外で好調な石化のPPコンパウンドのプラス、また、赤字が見込まれる基礎化学品の海外子会社影響も織り込んでいます。

◆ 石化セグメント

Q3. エチレンセンターおよびポリオレフィンの稼動について、4Q 実績、13 年度見込みを教えてください。併せて、足下動向についても教えてください。

A3. ・エチレンセンター:4Q 実績 80%、13 年 80%見込み。

・ポリプロピレン(PP):4Q 実績 80%、13 年上期 80%弱、下期 80%台半ば見込み。

・ポリエチレン(PE):4Q 実績 80%、13 年上期 90%、下期 100%見込み。

足下については自動車为好調であり、自動車関連製品は見通しより若干良い状況で推移しています。

Q4. 12 年度の営業利益において、4Q が3Q 比で悪化していないのは、在庫が増えていることが要因なのか。(3Q;28 億円、4Q;34 億円)

A4. 在庫増加は若干はありますが、特殊要因として、4Q には海外子会社の決算期変更の影響が約 10 億円プラスされていることが主な要因です。

Q5. 13 年度の業績予想で、下期に利益が拡大する計画(上期 45 億円、下期 115 億円)について説明して欲しい。また、通期 160 億円の想定は過去を見てもかなり高い水準と見受けられるので、その理由もあわせて説明して欲しい。

A5. 上期は、例年通り、エチレンセンターの定期修繕を予定しています。また、原料ナフサ価格上昇に伴うポリオレフィンの期ずれが残り、上期の損益レベルは低い見通しです。

下期は、これらが無くなることに加え、上期に実施する PE、PP 各 1 系列のプラント停止(PE;4 月、PP;7 月)や、エチレン製造装置の低稼働時の効率化対策(8 月)等、合理化効果のプラス影響が下期にフルに寄与すると見込んでいます。

また、海外の PP コンパウンド子会社の決算期変更によるプラスもあり、例年より若干下期型の見通しとなっています。

◆基礎化学品セグメント

Q6. 市況および需要の状況、および、スプレッド前提の考え方を教えてください。

A6. フェノール; 全体的に厳しい状況を見込んでいます。

- ・ アジアでは、特に最大の需要国である中国で春節明けも需要が回復せず、引き続き13年度も厳しい状況は継続すると見えています。また、中国を中心とした新增設等の影響により稼働率は低いと見ている。
- ・ 国内では、復興需要により住宅合板用接着剤等の拡大や、円安による輸出拡大等を見込んでおり、下期から緩やかながら回復すると見えています。
- ・ スプレッドは、原料ベンゼンが高止まりすると見ており、上期は足下並み、下期に若干の回復を見込んでいます。

PTA;

- ・ 全体需要に一定の伸びはあるものの供給過剰の状態であることから、稼働率は70%程度と見えています。
- ・ スプレッドは、上期は足下並み、下期に若干の回復を織り込んでいます。

Q7. 13年度の営業利益は、対前年+49億円の増益の見込みとなっている(資料 p16)。

12年度は特殊要因だけで、海外子会社の決算期変更の約△10億円と、事故影響△43億円(資料 p26)で合計△50億円以上あり、これを除くと、13年度は全く改善しない前提に見える。

13年度下期に市況は若干の回復見込みとの説明だったが、数字に表れないのは他にマイナス要因があるのか。

A7. 12年度の決算期変更影響の△10億円は全社合計であり、基礎化学品のみでは△20億円強のマイナスでした。よって、特殊要因の合計は△60億円強でした。

13年度は、特にPTAの市況回復の遅れにより、上期はスプレッドがかなり厳しく、1-3月並が続くと見えています。また、数量的にも減少を見えています。

特殊要因を除いても引き続き厳しい見通しです。

Q8. 業績がかなり厳しいが、構造改革についてはどう考えているかを教えて欲しい。

A8. 厳しい状況にあり、構造改革が必要と認識しています。

フェノール事業では、シンガポール、国内ともに用役や物流コストが高く、徹底的なコスト削減、原料の安価調達策等の検討を進めています。

◆ウレタンセグメント

Q9. 12年度4Qは、円安効果があったにもかかわらず、想定から下ぶれて赤字となったのはなぜか(4Q 想定+18億円、実績△8億円)。また、13年度に改善する要因を教えてください。

A9. SABICからの技術料収入を見込んでいましたが、13年度にずれ込んだことと、原材料高騰によるスプレッド悪化により、4Qは想定を下回りました。

13年度は、ずれ込んだ技術料が入ることに加え、円安影響等を織り込んでいます。また、TDI市況は、足下で若干弱含んでいますが円安効果でカバーできる範囲と見えています。

◆ヘレウスデンタル株式取得について

Q10. ヘレウスデンタルの連結の影響(売上高、営業利益、のれん償却等)をどのように織り込んでいるのか、また、連結された段階で、業績予想の修正もあり得るのか教えて欲しい。

A10. 6月のクロージングに向けて準備をしている段階のため、P/Lには未反映です。また、投資、キャッシュフローについては織り込んでいますが、それ以外は織り込んでいません。業績修正については、決着の段階まで言及できません。